

平成23年度
(平成22年度分)

事務事業評価票

C 定型・維持管理型 No. 1009010

I 事業の概要

通常評価

I-1 事業の概要

事務事業名 ホムヘンシアトリス	焼却灰溶融施設運営	所管局部課等	環境政策局適正処理施設部施設管理課
		(連絡先)	212-9820
		(評価票作成者)	施設管理課長 山本 孝

22決算額 (千円)	23予算額 (千円)	今後の方向性		24予算額 (千円)	事務事業の内容	
		現状のまま継続			本施設は、埋立処分地を延命するため、各クリーンセンターから排出される焼却灰（集じん灰を含む焼却残さ）を1,200℃以上の高温で溶かし、その溶融物を冷却固化させることにより、焼却灰を減容化、安定化させて、最終処分量を削減する施設である。焼却灰は溶融処理され、溶融スラグとなり、元の容積の1/2程度に減容化するとともに、環境上の特性が安定するため、路盤材等の土木資材として有効利用が期待される。また、埋立処分地内の覆土材としての利用も可能である。稼動予定の焼却灰溶融施設の運営等を行う。	
634	1,359,818			19,000		
業務運営方法	☐ 直営	委託(補助)先の名称、委託(補助)の内容 委託先：(株)タカシタ消防等 内容：各種機器の保守管理等				
	☒ 部分委託					
	☐ 部分補助等					
	☐ 全部委託					
	☐ 全部補助等					
実施根拠 (法令、条例、規則、要綱等)	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 京都市循環型社会推進基本計画（2009－2020）				事務事業の性格	☒ 義務的事業 ☐ 任意的事業
					会計区分	☒ 一般会計 ☐ 特別会計

I-2 投入量

年間経費等推移 (千円)	No.	区分	H20年度決算	H21年度決算	H22年度決算	H23年度予算	H24年度予算
	①	事業費 (千円)			634	1,359,818	19,000
		光熱水費				835,917	17,220
		需用費（消耗品・薬品・燃料費等）				171,959	730
		役務費（通信運搬費等）			3	5,321	130
		その他				796	120
	①'	委託料 保守管理等			631	345,825	800
	②	委託料が事業費に占める割合（①' ÷ ①） (%)			99.5%	25.4%	4.2%
	③	人件費（24年度は見込） (千円)			47,051	47,051	32,965
		職員(課長級) (人)			0.50	0.50	0.27
		職員(課長補佐級、係長級) (人)			1.07	1.07	0.51
		職員(係員) (人)			3.71	3.71	3.01
		嘱託職員等人件費 (千円)					
	④	年間経費（①＋③） (千円)			47,685	1,406,869	51,965
	⑤	特定財源（市税等の一般財源以外） (千円)				1,155	17,220
		国庫・府支出金 (千円)					
		受益者負担分(使用料、手数料等) (千円)					
		その他（スラグ売却、水道・電気工事負担金） (千円)				1,155	17,220
	⑥	京都市年間負担経費（④－⑤） (千円)			47,685	1,405,714	34,745
	⑦	受益者負担率（受益者負担分÷④） (%)			0.0%	0.0%	0.0%

平成23年度
(平成22年度分)

Ⅱ 評価結果

事業名 焼却灰溶融施設運営

Ⅱ-2 業績評価（Ⅱ-1 市民と行政の役割分担評価は「通常評価」のため省略）

A 効率性	No.	区 分	単位	H20年度	H21年度	H 2 2 年度
	①	焼却灰の処理量		t		
	②	年間経費（事業費及び人件費の合計額）		千円		47,685
	③	単位当たり経費（②÷①×1,000円）		円/単位		
	④	単位当たり経費変動率				
					評価	
分 析	(コスト変動の理由等)					
	平成22年度6月からの本格稼働予定であったが、平成22年度4月の試運転時に排水から基準値を超えるダイオキシン類が検出されたため原因究明と対応策の検討を行い、対策工事を平成22年度1月に完了した。平成23年度は試運転を実施したが、試運転中に様々なトラブルがあったため、総点検を実施しているところである。					
B 市民満足度	<調査の有無>		<調査方法>		<調査時期>	
	□ 有 □ 無 ■ 該当しない					
	(調査結果、現状分析等)					
C 環境保全 及び環境負荷軽減の要素	■ 環境 □ 関連 □ 一般	<現状分析、今後の方針等> 各クリーンセンターから排出される焼却灰を溶融し、冷却固化させ、焼却灰を減容化、安定化することで、最終処分量を削減し、埋立処分地を延命化する。また、生成された溶融スラグについては、建設資材として再資源化を図る。				

平成23年度の実施状況

試運転中に様々なトラブルがあったため、総点検を実施しているところである。

Ⅲ 今後の方向性

現状のまま継続	(今後の方向性の理由及び具体的な内容)
	試運転中に様々なトラブルがあったため、総点検のうえ、プラントの安全性や安全稼働を確保する対策を徹底して進め、安心・安全な施設として稼働させる。 また稼働後は、効率的な施設の運営に努め、経費削減を図る。